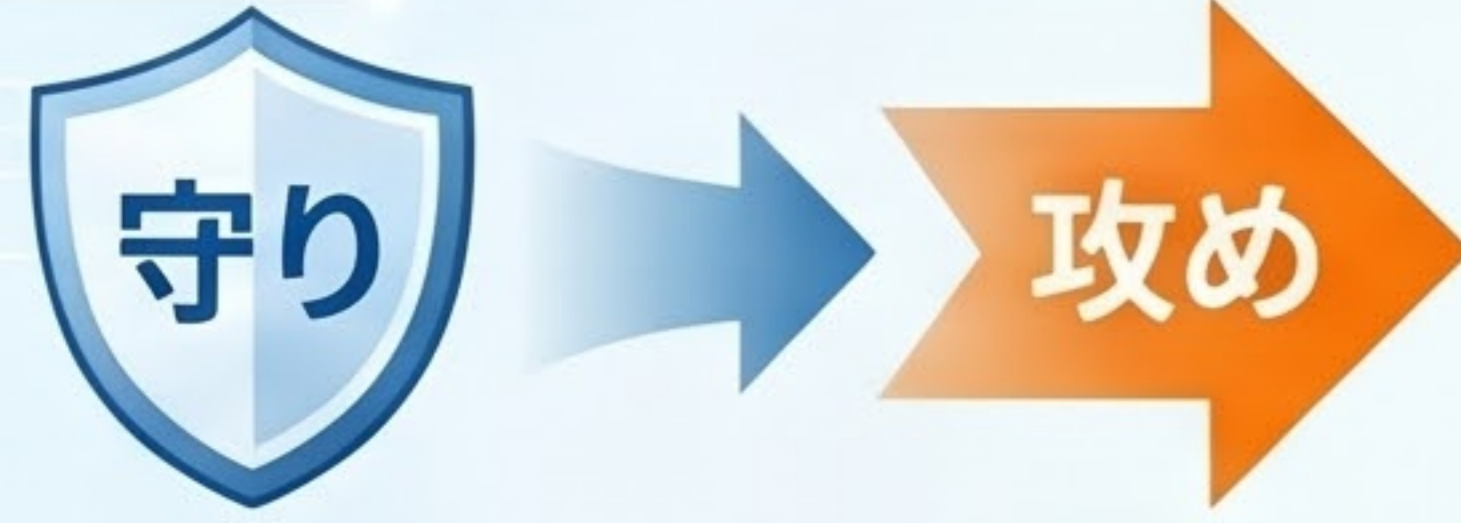


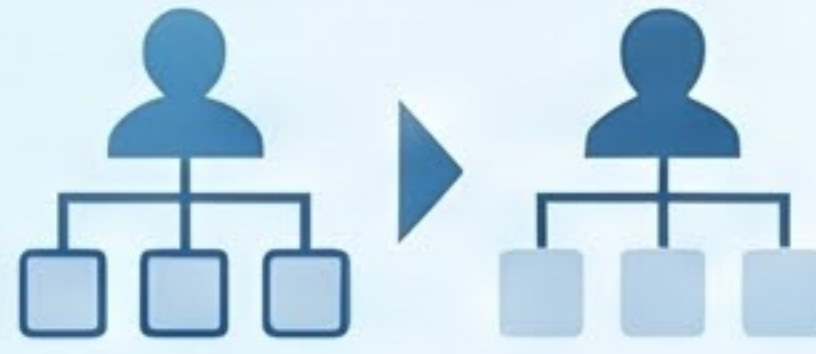
浜松ホトニクス：知財DXへの挑戦 — 生成AI活用の現状と未来

攻めの知財戦略へ：生成AI統合の成果と課題

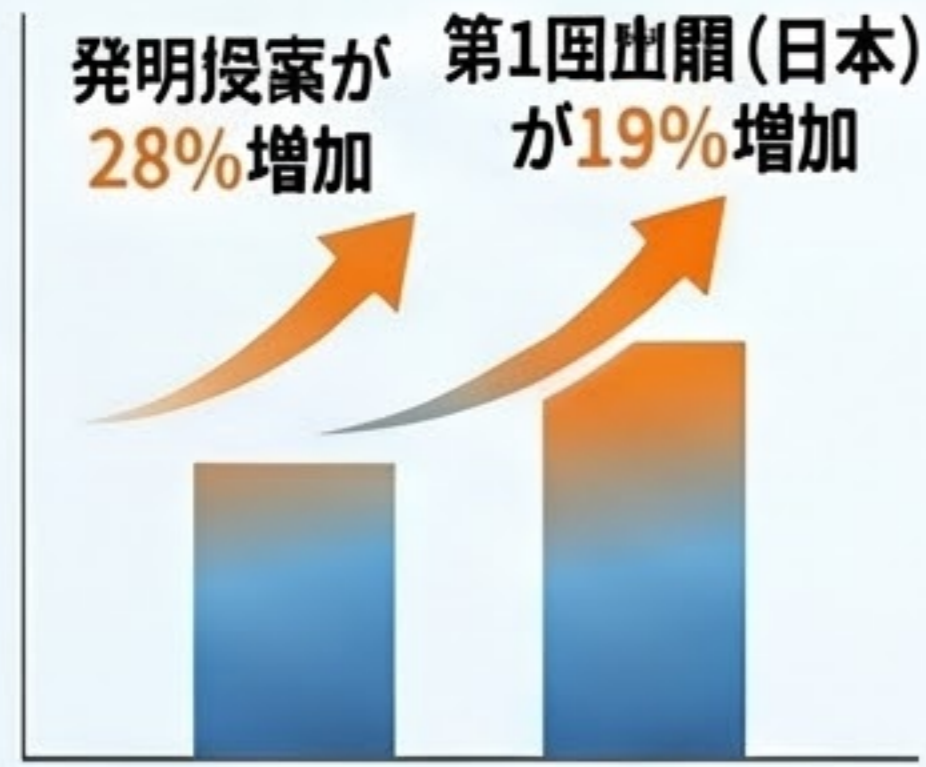
1. 戦略の転換：知財を経営の武器へ



「守り」から「攻め」の知財戦略へ
2025年4月より顧客の付加価値を考慮した新指針を推進



知的財産本部の
新設と体制強化
2023年10月：企画管理部と
戦略部の2部体制へ再編
知財戦略チームを各事業部・
研究所に配置



2. AI活用の導入手法：課題解決アプローチ



現場主導のDX推進：
現場の「問い」とAI関連発明の理解から開始

全社的な導入の波



「課題解決アプローチ」によるスモールスタート：
具体的な課題へのAI適用を個別検証

3. 業務別のAI活用事例と効果



出願権利化業務の効率化
発明業料や相談報告の作成支援、
発明理由通知への対応にAIを活用。
少ない人数で多くの案件に対応。



侵害予防調査のリソース削減
膨大な文献のスクリーニング作業を
AIで自動化・省力化。
担当者の負担を大幅に軽減。



知財情報分析の高度化
人力で行っていた膨大な文献の
査読や独自分類の付与を効率化。
高度な分析 (IPL) を実現。

4. 直面する課題とリスク管理



組織内の「土壌作り」が
最大の壁

メンバー間の習熟度にムラ。豪腕的な
メンバー設定の「アンバサダー制度」
を検討。

生成AI特有の3大リスクへの対応



ハルシネーション
(模範のない情報生成)



機密情報漏洩



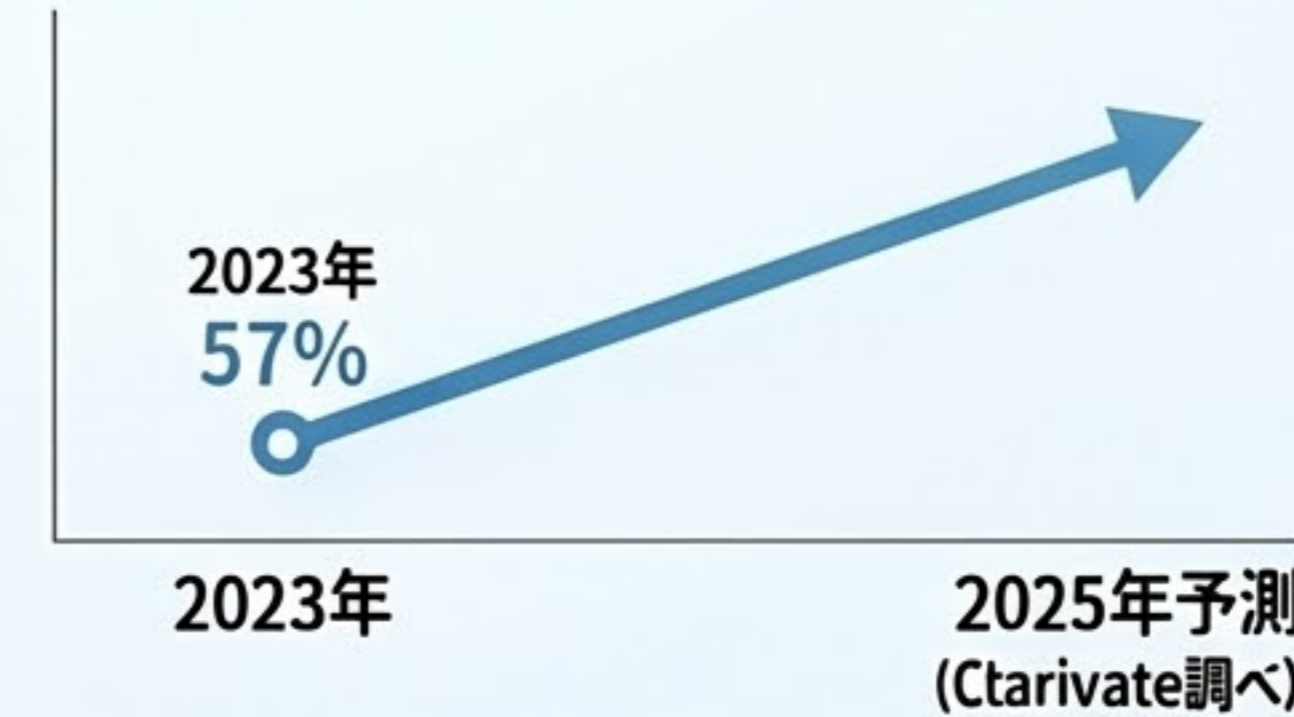
法的・倫理的課題
(AIは報酬を
なれない等)



「使い所の感覚」の共有が鍵：AIをいつ、どのように使うべきかという「考え方」を組織全体に浸透。

5. 業界動向：浜松ホトニクスの現在地

業界全体でのAI活用率が急増



先進企業との比較

企業名	主な取り組み内容	成果・現在地
浜松ホトニクス	課題解決アプローチによる 現場主導の活用	組織定着・カルチャー 醸成フェーズ
島漣製作所	侵害予防調査の自動化・ 子会社「Genzo AI」設立	コスト削減(8,000万円/年) とAIツールの升継
NEC	独自RAG技術による 米国特許書編作成	先行技術調査の時間を 最大93.5%短縮